

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
幼児曲演習 Infant song exercises		1年・2年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
1単位	演習	選択	(保育士養成課程選択必修)	こどもフィールドのみ
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
ピアノ演奏法Ⅰ ピアノ演奏法Ⅱ				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
教職課程（幼稚園教諭二種）、保育士資格取得に必要な科目				
担当者に関する情報				
氏名		研究室の場所	オフィスアワー	電話番号・メールアドレス
岡泉志のぶ 中沢充恵 西尾幸子 古屋知恵		講義棟3階 講義棟1階	月・水・木・金	授業中に指示します
授業の概要				
子どもが成長する過程で音楽の必要性和影響力はとて大きく、子どもが音楽に親しんでうたを歌ったり楽器を演奏することの楽しさを多く味わうためには、保育者の音楽能力が高いことが望ましい。この授業では、保育現場に必要なピアノ技術と伴奏法の習得を図り、特に教育実習までは各自が実習先から提示された課題曲について指導を受け、それ以降の授業でも幼児曲集を使用したレッスンとコードを使用した伴奏を実践できるようにする。その過程をチェックシートに記入し活用する。				
授業の目標				
①音楽に対する関心を高め、音楽的な表現活動に取り組む姿勢を身につけることができるようにする。 ②幼児曲チェックシートを活用して、幼児曲の伴奏を20曲以上演奏することができるようにする。 ③伴奏をしながら歌うことに慣れ、保育現場に必要な声の大きさや歌い出しのカウントができるようにする。 ④簡単なコードを活用して、幼児曲を応用的に伴奏することができるようにする。				
授業の方法				
演習（実技）形式で行う。ピアノ技術の習熟度別のクラス編成をし、個人レッスンと弾き歌いのグループレッソンを併用して行う。個人レッスンの授業内容は各学生の能力に応じた指導を行うこととし、以下には、標準的な授業計画を示す。				
学習の成果（学習成果）				
①実習先から提示された課題曲と各自が習得した幼児曲の伴奏や弾き歌いを保育現場で実践することができる。 ②楽曲の構成、正確な音程やリズム、速度、強弱を用いたピアノ技術の習得と音楽的に表現することができる。 ③伴奏を正しく演奏しながら正しい音程で表情豊かに歌を歌うことができる。 ④コードを理解し、伴奏を作ることができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	全体オリエンテーション：授業概要、評価方法の説明、受講上の注意等を説明 担当者別：習熟度チェック、各自の教材の選定と課題			
第2回目	日常のうた弾き歌い①おはようのうた 朝のうた			
第3回目	日常のうた弾き歌い②おべんとう さよならのうた おかえりのうた			
第4回目	実習先の課題を用いて 日常のうた			
第5回目	実習先の課題を用いて 季節のうたと弾き歌い			
第6回目	実習先の課題を用いて 行事のうた弾き歌い			

第7回目	実習先の課題を用いて 園歌などの園の特色を持ったうたの弾き歌い	
第8回目	幼児曲弾き歌い①（夏のうた）おぼけなんてないさ うみ シャボン玉 調性、簡単なコードの復習	
第9回目	幼児曲弾き歌い②（秋のうた）バスごっこ やきいもグーチャーパー 記譜法①	
第10回目	幼児曲弾き歌い③（秋のうた）とんぼのねがね ピクニック 記譜法②	
第11回目	幼児曲弾き歌い④（冬のうた）あわてんぼうのサンタクロース ゆきのペンキやさん 伴奏の作成①	
第12回目	幼児曲弾き歌い⑤（行事のうた）ハッピーバースデー 思い出のアルバム 伴奏の作成②	
第13回目	幼児曲弾き歌い⑥ さんぽ アンパンマンマーチ 作成した伴奏の弾き歌い	
第14回目	グループ発表と講評	
第15回目	幼児曲弾き歌い⑦（日常の歌・行事の歌・季節の歌復習）	
事前・事後学習	提示された課題を完成させられるよう練習の時間を定め予習をする。レッスンで習得したことを復習し、レポートを増やす。	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	30%	毎回、与えられた課題を練習して授業に臨んでいる。また、授業内でのレッスンによる理解度についても評価する。
レポート		
調査報告書		
小テスト		
試験		
発表内容（態度含む）	50%	担当教員全員の前で1曲弾き歌いし、曲の難易度と表現力で採点する。各担当教員が全ての学生の演奏を採点し、その平均点を評価とする。
その他	20%	曲の進度による評価をする。
教科書と参考図書		
テキスト：幼児のための音楽教育（教育芸術社）、その他（実習先からの課題曲や幼児曲）の楽譜		
履修上の留意点・ルール		
使用教室（MR I、MR II、レッスン室）では、飲食持ち込み禁止とする。 毎回、各学生の進度に適した曲が課題となり、次回の授業でその曲の個人レッスンを受ける。 短い時間でも毎日鍵盤に触れ、将来、保育現場で子どもたちに音楽の楽しさを伝えられるように努力してほしい。		